



広島大学光り輝き入試の「選抜のポイント、面接等の出題例等」

令和3年度総合型選抜・学校推薦型選抜実施学部の事例

※1 以下は、令和3年度総合型選抜（令和2年度実施）がどのように行われたかについて、学部・学科等の募集単位ごとに選抜のポイントや出題例を示したものです。次年度の広島大学光り輝き入試が、以下のように行われるということではありませんので、ご注意ください。

※2 本文中又は学科・コース等の名称の後に入試方式が記載されていない場合は、総合型選抜の内容を示しています。

総合科学部 総合科学科
<p><第1次選考></p> <p>第1次選考は、出願書類（調査書及び自己推薦書）について、それぞれ「評価のポイント」を定め、段階評価により総合判定を行った。</p> <p><最終選考></p> <p>最終選考では、受験者は最初に「講義」を聴き、その後、講義の内容について「小論文」を作成した。この「小論文」には、日頃から授業等を通じて、読解力、論理的思考力、文章構成力と表現力などの養成が求められる。「面接」は、総合型選抜の「アドミッション・ポリシー」に基づいた総合科学部生としてふさわしい学生の選考を目的に、受験者個別に約20分の面接を実施した。</p> <p>最終選考の合否判定は、「小論文」と「面接」の合計点に出願書類（調査書及び自己推薦書）の評価を加味した総合判定で行った。</p>
総合科学部 国際共創学科
<p>【国内選抜型】</p> <p><第1次選考></p> <p>第1次選考は、出願書類（自己推薦書（英語で記述）、出願要件証明書類（英語民間試験等）及び学業成績・各種試験結果証明書）に基づき、段階評価により総合判定を行った。</p> <p><最終選考></p> <p>最終選考では、第1次選考の合格者に対して、英語による直接面接を行った。</p> <p>受験生は、社会的（Social）、国際的（Global）、科学的（Scientific）な課題を理解し、自分自身のアイデアを論理的かつ説得力をもって英語で説明することが求められる。</p> <p>また、社会で活躍する上での適応力や創造性を示すことも求められる。</p> <p>最終選考の合否判定は、面接結果の総合評価に、出願書類（自己推薦書（英語で記述）、出願要件証明書類（英語民間試験等）及び学業成績・各種試験結果証明書）の評価を加味した総合判定で行った。</p>



文学部 人文学科

< 第1次選考 >

令和2(2020)年度入学までのAO入試総合評価方式Ⅲ型(ゼミナール(授業)への出席を課す入試)と大きく異なり、新しく始まった光り輝き入試総合型選抜Ⅱ型では、16の各専門分野があらかじめ指定する課題図書に基づき、その分野を学ぶうえで必要な読解力、論理的思考力、文章表現力などを見る口頭試問を、オンライン(新型コロナウイルス感染防止上の措置)で行いました。併せて、英語や古典などを含む、各分野の特性に応じた基礎学力(知識)も問いました。

総合評価方式Ⅲ型によって過去に出題された総合問題は、本学図書館(ただし、東千田図書館を除く。)と人文社会科学系支援室(文学事務室)で閲覧することができますが、令和3(2021)年度入学対象の出題はオンラインのため、閲覧等はできません。

< 第2次選考 >

専門分野ごとに個人面接を実施し、文学部人文学科全般及び各分野の勉学に対する意欲や関心、大学での学生生活全般や研究活動への適性を中心に評価しました。併せて出願書類や第1次選考に関連した質疑も行いました。

< 最終選考 >

大学入学共通テスト

◇合格判定基準等

< 第1次選考 >

専門分野ごとに出願書類の自己推薦書(100点満点)と口頭試問(100点満点)の成績により判定し、原則として各分野5名以内を合格としました。調査書は、総合的に評価するうえでの参考資料として用いました。

なお、本学が指定する英語民間試験の成績証明書等を提出した者は、自己推薦書の評価に反映させました。

< 第2次選考 >

専門分野ごとの面接(100点満点)と第1次選考の成績を総合的に評価して、合否を判定しました。

< 最終選考 >

第2次選考合格者のうち、大学入学共通テストで受験を要する教科・科目の得点の合計が、合格基準点以上である者を合格としました。

◇受験生に伝えておきたいこと

光り輝き入試総合型選抜Ⅱ型は、これまでの自分とこれからの自分に向かい合い、自分の将来を形のあるものにしていくチャンスを与えてくれます。広島大学文学部該当分野への志望動機や熱意を、具体的に語れることを求めます。

なお、文学部の光り輝き入試総合型選抜Ⅱ型は専門分野への適性等を評価し選考していますので、入学後に専門分野を変更することは原則として認められません。よって志望する



専門分野で研究する強い意志と意欲をもった者のみが受験することを望みます。

教育学部 第一類（初等教育教員養成コース）

<面接試験・プレゼンテーションのポイント>

一人あたり約 20 分（準備を含めると約 35 分）の個別面接を実施した。流れは次の通り。
「準備室入室→プレゼンテーションのテーマを知る。準備室に用意されている用紙・筆記用具等を使用してプレゼンテーションの準備をする（約 15 分）。→プレゼンテーション試験室入室→プレゼンテーションの実施と質疑応答（約 10 分）→面接試験室入室→志願時に提出された課題レポート，及びその他の事項についての質疑応答（約 10 分）→退室」

プレゼンテーションは，「働くこと」の意味について，小学生にどのようなことを伝えますか。」というテーマについて，小学生にわかるように伝えるという想定で行った。

総合型選抜の「アドミッション・ポリシー」に基づいて初等教育教員養成コースにふさわしい学生を選考する。

教育学部 第一類（特別支援教育教員養成コース）

<小論文>

特別支援教育や教育全般，社会問題に関連したテーマをもとに，そのテーマに対する問題意識や自分の考えを論述形式で解答する問題を課した。

<面接試験・プレゼンテーションのポイント>

面接準備室及び面接試験室において，受験者 1 人ずつに対して以下のような流れで実施した。

1. プレゼンテーションの準備（約 25 分）：面接準備室

面接準備室に用意した課題用紙・筆記用具等を使用してプレゼンテーションの準備を求めた。

2. プレゼンテーションと面接者との質疑応答（約 20 分）：面接試験室

課題について持っている意識や意見，アイデア等をまとめた課題用紙をもとに，口頭でのプレゼンテーションを課した（約 10 分）。その後，プレゼンテーションの内容に関して面接者との質疑応答を行い（約 10 分），問題意識，創意・工夫力，想像力，プレゼンテーション力，特別支援教育や関連する事項への関心等を多面的に評価した。

3. 一般面接（約 5 分）：面接試験室

プレゼンテーション及び質疑応答の終了後，本コースの志望動機等に関する質問を行った。

本コースでは，総合型選抜の「アドミッション・ポリシー」に基づき，卒業後には多様な障害種別に対応できる，特別支援学校の教員としてふさわしい資質と能力を兼ね備えることができ，将来，「特別支援学校」で活躍する教員を目指す学生の入学を望んでいる。受験生の皆さんには，将来，特別支援学校で自分がどのような教師になりたいと考えるのか，十分にまとめて試験に臨んでほしい。



教育学部 第二類（自然系コース）

＜小論文＞

理科に関する基礎学力、思考力、表現力などをみる小論文及び論述形式の問題を課した。

＜面接試験・プレゼンテーションのポイント＞

準備室及び試験室2室において受験者一人ずつに対して以下の順序及び内容により試験を実施した。

1. プレゼンテーションの準備（15分）：準備室

自然及び自然科学に関する課題について、A4用紙に資料を作成してプレゼンテーションの準備をする。

2. プレゼンテーションと口頭試問（15分）：試験室A

作成した資料をプロジェクターで提示しながら、プレゼンテーションを行う。その後、プレゼンテーション内容に関する質問に回答する。

3. 一般面接試験（15分）：試験室B

自然や自然科学及び科学教育に対する関心や考え方に関する質問に加えて、志望理由や大学生活に対する期待などについての質問に回答する。

教育学部 第二類（数理系コース）

＜面接試験・プレゼンテーションのポイント＞

1. 数学についての課題レポートや調査書、自己推薦書などを資料に1次選抜を行い、15名程度に絞り込んだ。

2. 一人あたり30分程度の個別面接を実施した。

①高等学校で学んだ数学の基礎的内容についてのプレゼンテーション課題を与え、受験生に考えてもらった。（10分）

②考えたことをもとに、受験者に黒板を使いながらプレゼンテーションをしてもらった。その内容及び「数学」や「学び」についての関心・意欲に対する口頭試問を行った。（20分）基礎的内容や問題の解決を支えている論理的背景まで関心を持って学習してほしい。

教育学部 第二類（技術・情報系コース）

総合型選抜の「入学者受入れの基本方針（アドミッション・ポリシー）」に基づき、筆記試験と面接を行った。

＜筆記試験のポイント＞

中学校の技術科と高等学校の情報科に関する生活や社会の事象を題材とした論理的思考力や問題解決力などを問う論述形式の問題を課し、基礎的・基本的な知識・技能と思考力・判断力・表現力を評価した。

＜面接（プレゼンテーションを含む）のポイント＞

2つの個人面接を行った。各面接は1人あたり15分程度で実施した。下記の内容から、思考力・判断力・表現力と主体性・協働性を中心に評価した。

1つ目の面接では、技術・情報に関連する内容についてのプレゼンテーションを行っても



らった後、技術的・情動的素養に関する質疑応答を行った。

2つ目の面接では、志望動機や入学後の大学生活に対する考え、技術・情報教育に関する内容について質疑応答を行った。

教育学部 第二類（社会系コース）

<面接試験・プレゼンテーションのポイント>

高等学校地理歴史科・公民科の学習成果をふまえた課題を与え、資料を提示してプレゼンテーション形式の面接を個別に行った。

具体的には、面接準備室に受験者を一人ずつ呼んで、面接試験開始 30 分前にプレゼンテーションのための課題が書かれた資料を渡し、それを熟考させ、準備してもらう（移動時間を考慮して 29 分間）。その後、受験者を面接試験室に移動させて、課題に対するプレゼンテーションを半分程度の時間を割いて行わせ、残りの時間で発表内容について面接委員と質疑応答を行い、知識の理解度と考察の表現力を中心に評価した（14 分間）。

教育学部 第三類（国語文化系コース）：学校推薦型選抜

<小論文>

国語に関する基礎的な力、特に、国語文化をテーマとした文章を分析的に読む力と、その読みをもとに自らの考えを深め、それを文章で表現する力を問うた。

<面接試験>

本コースのアドミッション・ポリシーを踏まえ、提出された調査書・推薦書及び志望理由書をもとに個人面接（約 15 分）を行った。面接試験では、国語文化とその教育に対する関心・意欲について、ア) これまでの学習状況、イ) 言葉とその文化に関する関心・問題意識、ウ) 中等国語科教育に携わる者としての意欲・態度、エ) 論理的な表現力・話し方を観点として、評価を行った。

教育学部 第三類（英語文化系コース）

<小論文のポイント>

英語教育もしくは広く言語教育や学校教育などに関わる題材に関した英文を素材にして、まずは英文の趣旨を的確に理解できているかを記述式問題で問うた。さらにその題材に関する自分の考えを日本語で書かせ、主に思考力・判断力を評価した。加えて、その日本語の論述を、自ら自然な英語に翻訳させる課題を英語論述とし、自らの思考力・判断力を英語でも表現できるかどうかを評価した。

<面接試験・プレゼンテーションのポイント>

面接試験は、英語によるものと日本語によるものの 2 本立てで実施した。

英語による面接では、短い文章を元に、(1) 黙読、(2) 音読、(3) 内容理解とそれに対する自分の意見表明、という順序で行った。(2) では、意味を理解した読みができていないか、発音・イントネーションは適切か、等を評価ポイントとした。(3) では、内容を理解しそれを自分なりの言葉で表現できるか、自分の意見を英語でプレゼンテーションできるか、等を評価ポイントとした。



日本語による面接では、時事問題をめぐって、それに関する考えを發表してもらった。自分の考えを論理的に明確に述べることができるか等を評価した。大学で学ぶ上での資質、能力、適性等を全体として把握できたと考えられる。

教育学部 第三類（日本語教育系コース）

「入学者受入れの基本方針（アドミSSION・ポリシー）」に基づき、小論文と面接を行った。小論文は、まとまった分量の文章をもとに、受験者の読解力、思考力、表現力などを問うた。面接では、提出書類や配布資料に関して、複数の面接委員からの質問に答えることが求められた。

<面接のポイント>

面接委員との間で適切なコミュニケーションが取れること、質問を適切に理解し、自分なりの考えを自らの言葉で表現できること、論理的に話せることなどが重要である。準備してきた内容を話の流れに関係なく一方的に話すことは望ましくない。

日本語教育系コースが求める学生像をアドミSSION・ポリシーとしてまとめている。それをよく読み、面接に臨むことが望ましい。

教育学部 第四類（健康スポーツ系コース）

（I型）

<小論文>

小論文は、健康スポーツ系コースの学問を学ぶうえで必要な基礎学力を判断するために2問出題した。一つは健康やスポーツ、スポーツ選手、指導者に関連するテーマについて受験者の考えを問う記述式の問題で、もう一つは健康スポーツに関する英文の著書、論文、評論などの一部を全訳する問題とした。

<実技試験>

特定の運動・スポーツ種目において高い水準を持ち、入学後に大学スポーツ（課外活動を含む）の発展に貢献するなど、本コースが求める学生像をふまえ、実技実績に係る証明資料に記載されている内容の妥当性を評価するために、指定された種目の中からもっとも得意とする種目を一つ選び、その実技試験を実施した。

<面接・プレゼンテーションのポイント>

受験者は、面接準備室において課題（「ウィズコロナ時代」のスポーツ観戦スタイルについて提案しなさい。）を受け取り、プレゼンテーションの内容を考え整理した（15分）。その後、面接室において課題に対するプレゼンテーション（黒板や身振りの使用可）を5分間で行い、その内容や志望動機などについて口頭試問を受けた（プレゼンテーションの時間を含めて20分）。

（国際バカロレア型）

<面接>

提出された出願書類をもとに個人面接を約15分行った。面接では、志望動機とそれに伴う経歴について質問を行った。本コースで学ぶことについての関心・意欲・態度及び学部卒



業後の計画について質問を行い、それらの質問を適切に理解し、回答できるかを重視した。

教育学部 第四類（人間生活系コース）：学校推薦型選抜

＜面接＞

本コースのアドミッション・ポリシーを踏まえ、提出された出願書類をもとに個人面接（約15分）を行った。面接では、本コースで学ぶことについての関心・意欲・態度を評価する質問を行うとともに、主体性・協働性を評価する質問を行い、それらの質問を適切に理解し、回答できるかを重視した。

教育学部 第四類（音楽文化系コース）

＜小論文＞

音楽教育学及び音楽学の内容に関する論述問題を課した（一部英文の内容に関する出題を含む）。英語能力、音楽と音楽教育全般に関する教養の有無、論理的思考力、論述力を評価の対象とした。

＜実技試験＞

①コールユーブンゲンの視唱、及び②選択した種目の演奏、の2つを課した。

＜面接試験・プレゼンテーション＞

第1面接室では、音楽理論・音楽学・音楽教育に関する知識や発想力を問う面接を行った（10分間）。当該領域に関する知識の量、瞬時の対応力、コミュニケーション能力、論理的な表現力を評価の対象とした。

第2面接室では、社会一般の音楽シーンにおける現代的課題について考えを整理し、プレゼンテーションを行った（10分間）。プレゼンテーションにはホワイトボードを使うことができる。感受性、発想力、表現力、説得力を評価の対象とした。

＜面接試験・プレゼンテーションのポイント＞

広く社会における音楽的事象について、本や新聞を読んだり、音楽の先生などと会話・議論したりするなどして、知識を増やし、多様な見方や考え方があることを知っておくとよい。また、「音楽」「音楽教育」「演奏会」「奏法」「演奏スキル」「音楽史」「西洋音楽」「日本音楽」「アンサンブル」などをキーワードにした本のなかから興味のあるものを選んで読むのもよい。そのなかで気になった点や話題になっていることなどを書き出し、それに対する自分の考えを書く練習をするとよい。書いたり議論したりする際には、自分の考えを論理的に一貫するように主張することが重要である。

教育学部 第四類（造形芸術系コース）

【実施内容】

最終選考において、小論文、実技、面接（プレゼンテーション含む）の各試験を行った。

(1) [小論文及び実技]

入試問題（過去問）の公開を行っているので、希望者は閲覧することができる。

[閲覧の方法]については広島大学の公式ウェブサイトを確認して下さい。

(2) [面接（プレゼンテーション含む）]



プレゼンテーションの準備を行ったのちに、一人当たり 20 分程度の面接（プレゼンテーション含む）を行った。大まかな内容は以下のとおり。

＜プレゼンテーションの準備＞（15 分）

待機場所で課題を提示し、用意された用紙を使ってプレゼンテーションのための構想を練る等の準備を行ってもらった。課題は、美術資料を用いてプレゼンテーションを行うという趣旨のもの。

＜面接（プレゼンテーション含む）＞（20 分程度）

面接室で、OHC（実物投影機）を用いて、5 分程度のプレゼンテーションを実施してもらい、終了後、その内容について質問した。また、その後「造形芸術及び造形芸術教育に関する問題意識、意欲、関心、思考力、表現力、適性など」に関わる質問に答えてもらった。また出願時に提出してもらった「美術に関わる活動実績調査書」の内容についても質問した。

＜その他＞

- ・面接を実施する前に、OHC（実物投影機）の使用方法についての説明を行った。
- ・面接は、受験番号順に行った。
- ・受験者控室では、飲食物、本・雑誌等を持ち込んでよいこととした。

教育学部 第五類（教育学系コース）

＜小論文＞

教育に関連するエッセイと受験者の意見を問う論述問題を出題した。エッセイでは指定箇所の意味やそれについての受験者の意見を論述してもらった。

＜面接・プレゼンテーション＞

受験者は教育に関するプレゼンテーションの課題を与えられ、30 分間でプレゼンテーション用の資料を作成した後、約 20 分の個人面接を行なった。個人面接では、作成した資料を提示しながらプレゼンテーションを行った後、それをもとに面接官と討議を行った。

教育学部 第五類（心理学系コース）

＜小論文＞

心理学系コースのアドミッション・ポリシーを踏まえたうえで、心理学を学ぶための基礎学力、思考力、表現力などをみる問題を出題した。

＜面接＞

面接では、現代社会における「こころ」の問題に関する関心、知識、洞察力を把握し、思考力や論理的表現力について調べることを目的とした。その中で「こころ」に関わる短い資料を受験者に与え、それについての自分の考えを発表してもらった。その後、質疑応答を行った。面接は受験者 1 名ずつに対して行い、資料の提示から質疑応答までに要した時間は 15 分程度であった。

法学部 法学科昼間コース

＜小論文の出題＞

- ・総合型選抜（Ⅱ型）：論文・評論等を題材とし、法学・政治学・社会学を中心とした社会



科学系の学問を学ぶ上で必要な基礎的学力をみる。次の文献等から引用して出題。

【出典】ヤン＝ヴェルナー・ミュラー（板橋拓己訳）『ポピュリズムとは何か』（岩波書店，2017年）

<面接の方法・内容>

複数の教員がアドミッション・ポリシーに適う意欲・能力を持っているかどうかを問う質問を行う。

・総合型選抜（Ⅱ型）：修学に対する意欲を持っているか，人間や社会に対する深い関心や問題意識を持っているか，それらを論理的に表現・説得するコミュニケーション能力を持っているかなど。

・総合型選抜（国際バカロレア型）：修学に対する意欲を持っているか，人間や社会に対する深い関心や問題意識，国際感覚を持っているか，それらを論理的に表現・説得するコミュニケーション能力を持っているかなど。

法学部 法学科夜間主コース

<小論文の出題>

・総合型選抜（社会人型）：論文・評論等を題材とし，法学・政治学・社会学を中心とした社会科学系の学問を学ぶ上で必要な基礎的学力をみる。次の文献等から引用して出題。

【出典】ヤン＝ヴェルナー・ミュラー（板橋拓己訳）『ポピュリズムとは何か』（岩波書店，2017年）

・総合型選抜（フェニックス型）：論文・評論等を題材とし，法学・政治学・社会学を中心とした社会科学系の学問を学ぶ上で必要な基礎的学力をみる。次の文献等から引用して出題。

【出典】ヤン＝ヴェルナー・ミュラー（板橋拓己訳）『ポピュリズムとは何か』（岩波書店，2017年）

<面接の方法・内容>

複数の教員がアドミッション・ポリシーに適う意欲・能力を持っているかどうかを問う質問を行う。

・総合型選抜（国際バカロレア型）：志願者なし

・総合型選抜（社会人型）：働きながら修学する意欲を持っているか，社会人として人間や社会に対して深い関心や理解を持っているか，それらを論理的に表現・説得するコミュニケーション能力を持っているか，法学部で学ぶ知識を社会生活にどのように活かしていくか，など。

・総合型選抜（フェニックス型）：修学に対する意欲を持っているか，人間や社会に対して社会人としての過去の経験に基づく深い関心や理解を持っているか，それらを論理的に表現・説得するコミュニケーション能力を持っているか，法学部で学ぶ知識を社会生活にどのように活かしていくか，など。



経済学部 経済学科昼間コース・夜間主コース：学校推薦型選抜

＜出願書類＞

調査書、推薦書及び志望理由書を提出してもらいます。調査書は評定平均値が4.0以上必要です。また、推薦人数は1校につき1名です。

＜面接＞

問題意識と勉学意欲を重視し、あわせて問題解決能力や議論する能力をみる質問をして、適性を判断します。

経済学部 経済学科夜間主コース：総合型選抜（社会人型・フェニックス型）

＜小論文＞

論文・評論等を題材とし、経済学・経営学を学ぶ上での適性を見る問題を出題します。令和3年度の問題は、「経営判断」「人的資源テクノロジーの活用」に関する問題でした。

＜面接＞

問題意識と勉学意欲を重視します。また、「志望理由書」は面接する上で参考資料として用います。

理学部 数学科

＜筆記試験＞

筆記試験 150分で、数学の問題であった。数学の基礎知識・思考力・表現力をみる問題である。

＜面接の内容・方法＞

高校数学の基礎概念に関する課題を与え、それについて面接委員が質問して、受験生が解答し、数学的な理解及びコミュニケーションがとれるかを判定した。

＜合否判定基準等＞

筆記試験と面接の総合点を主とし、調査書（調査書の全科目の成績と数学の成績を点数化）と志望理由（自己推薦書の一部）を加味した。

理学部 物理学科

＜筆記試験＞

科学的思考力と英語力を含めて、物理と数学の基礎的な学力を問う筆記試験を実施した。

＜面接の内容・方法＞

複数の審査委員が物理学への関心や進学希望動機などを尋ねた。また、身近な生活科学や自然現象等に関連した質疑応答を通じて、学習能力、思考能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を判定した。

＜提出書類において重点を置いて評価した点＞

調査書を参考にしつつ、自己推薦書において、物理学に対する興味や志望動機、及び、物理学に関する高校時代の特別活動を総合的に評価した。

＜合否判定基準等＞



筆記試験と面接による評価から適性が認められる者について、調査書を加味して判定した。

<受験者や高校教員に伝えたいメッセージ>

物理、数学、英語の基礎学力は入学後の学習に特に必要なので、高校までに学ぶ範囲をしっかり身につけて欲しい。

理学部 化学科

<筆記試験>

化学を中心に科学分野の記述式問題を出題した。科学英語の読解力を試す問題も出題した。

<面接の内容・方法>

科学的問題を与え、その問題について本質に立ち戻って考えているかどうかを、複数の面接委員の質疑に対する応答により検証した。

<面接において特に重視した点>

観測される自然現象について、なぜそうなるかを常に自分で考えているか、そして、自分の考えを検証しようとしているかという点を重視した。

<提出書類において重点を置いて評価した点>

化学の分野を学びたいという意欲、新しいことを切り開いていきたいという意欲をもっているか、という点を重視した。

<合否判定基準等>

筆記試験及び面接による評価の総合点に、調査書の内容を加味して総合的に判定した。

<受験者や高校教員に伝えたいメッセージ等>

自然現象に深い興味と好奇心をもち、なぜそうなるのかを自分で考え、広い視野からそれを検証しようとする学生の入学を望む。

<入学までの教育>

基礎学力、特に、数学、物理、英語は入学後の学習に不可欠なので、合格者には入学までに、数学、物理、英語に関する課題演習を課し、提出を義務づけている。

理学部 生物科学科

[科学オリンピック型]

<試験>

過去3年間に実施された日本生物学オリンピック（旧名称は「生物チャレンジ」）における予選の成績と調査書及び自己推薦書の内容を総合的に評価した（第二次選考は実施していない）。

<合否判定基準等>

日本生物学オリンピックの成績と出願書類の評価を総合して評価した。

<受験生や高校教員に伝えたいメッセージ等>

過去3年間に実施された日本生物学オリンピックの第1次試験に合格し、生物や生物が



関わる自然現象に対する好奇心や探求心に溢れ、生物の謎に挑もうとする意欲ある学生の積極的な応募を期待している。

<入学までの教育>

合格者には入学までに、複数の生物科学関連の推薦図書について読後感想をまとめたレポートの提出と、生物学洋書テキスト（抜粋）の和訳による内容の要約を課した。

〔一般型〕

<面接の内容・方法>

複数の審査委員による1人30分程度の面接を実施した。生物学への関心度や入学志望動機に関する質問や、高校レベルの生物学に関する知識・論理性等を問う質疑応答を行った。

<面接において特に重視した点>

志望動機、学習意欲、専門知識、独創性、論理性、表現力を総合的に重視して評価した。

<提出書類において重点を置いて評価した点>

学業成績に優れ、特に生物を含む高校理科学科目及び英語の成績が優秀であることを評価した。

<合否判定基準等>

第1次選考では、出願書類を総合的に評価した。

第2次選考では、面接による評価に出願書類の評価を加味して総合的に判定し、合否を決定した。

<受験者や高校教員に伝えたいメッセージ等>

生物や生物が関わる自然現象に対する好奇心や探求心に溢れ、生物の謎に挑もうとする意欲ある学生の積極的な応募を期待している。

<入学までの教育>

合格者には入学までに、複数の生物科学関連の推薦図書について読後感想をまとめたレポートの提出と、生物学洋書テキスト（抜粋）の和訳による内容の要約を課した。

理学部 地球惑星システム学科

〔一般型〕 ※令和3年度入試では、志願者がいなかったため実施無し。

<筆記試験>

筆記試験の問題構成は、邦文と英文の合計2題である。筆記試験の問題は、一般的な科学的思考力・読解力・英語力を問う内容であり、地球科学に関する題材を基に出題をした。

<面接の内容・方法>

前日の筆記試験の問題について、各々の解答をもとに理解度を確認した。

また、提出書類をもとに科学に対する興味や入学後の抱負、さらに将来の進路に関して質問した。

〔日本地学オリンピック利用型〕

<面接の内容・方法>

前日の筆記試験の問題について、各々の解答をもとに理解度を確認した。



また、提出書類をもとに科学に対する興味や入学後の抱負、さらに将来の進路に関して質問した。

<面接において特に重視した点>

地球惑星科学や災害・環境科学への興味・関心や論理的思考などを重視した。

<提出書類において重点を置いて評価した点>

調査書及び自己推薦書を偏りのないよう評価した。

<合否判定基準等>

筆記試験、面接及び出願書類を総合的に評価し選考した。

なお過去問は以下のホームページで入手可能です。

<https://www.hiroshima-u.ac.jp/nyushi/gakubu/kakomon>

<入学までの教育>

合格者には入学までに、高校で学習する数学、物理、化学、英語及び地学に関する宿題を課し、レポート提出を課した。

医学部 医学科

総合型選抜（Ⅱ型）

<面接の内容・方法、面接において特に重視した点>

小論文では、英語の読解能力と科学的な思考力を点数化して評価しました。面接では、課題に対するプレゼンテーションの内容と自己推薦書を元に、アドミッション・ポリシーに示された項目への適合性、研究志向を持つ医療人の育成を目指した MD-PhD コースへの進学の意味、科学的な学識の有無、及び論理性などの能力を重視して評価しました。

総合型選抜（国際バカロレア型）

<面接の内容・方法>

志望理由書に記載された内容も参考にしながら、アドミッション・ポリシーに示された項目への適合性、学識の有無、及び医療人としての適性を点数化して評価しました。

学校推薦型選抜医学部医学科（ふるさと枠）

<書類及び面接において特に重視した点>

広島県の地域医療、特に県内中山間地の医療に従事する意欲を評価します。アドミッション・ポリシーに示された項目への適合性、地域住民や他の医療従事者と円滑な人間関係を構築できる協調性、及び奨学金返還免除要件となっている勤務を将来確実に遂行できる人物であるかどうかを評価します。

医学部 保健学科

総合型選抜（Ⅱ型）

<面接の内容・方法>

3名の面接者による。面接時間はおよそ15分を目安。志望動機、専攻内容に関する知識、自己アピール、自己推薦書の内容に関する質問など。

<小論文のテーマ>



高齢社会や健康観に関するテーマ、医療や保健、福祉のあり方に関するテーマ、職業選択と意識についてのテーマなど。

歯学部 歯学科及び口腔健康科学科

<総合型選抜 II型の実施内容・合否判定基準等>

出願書類は、勉学を含む高校時代の活動状況、歯学部を志した動機、大学での学習に対する意欲等を重視して評価しました。小論文は歯学科が1問、口腔健康科学科は2問出題し、採点は学生募集要項の実施科目等の内容の記載に従って行いました。

面接は、歯学科では、受験者を多角的に総合評価するため、異なる3名により2回、計6名の面接員により行いました。口腔健康科学科では、すべての受験者に対して、口腔保健学専攻は4名、口腔工学専攻は3名の面接員により面接を行いました。面接では両学科とも、受験者の提出書類を参考にしながら質問し、評価は小論文と同様に、学生募集要項の実施科目等の内容の記載に従って行いました。

選考では、出願書類、小論文、面接及び大学入学共通テストの結果を総合して判断し、歯学部に入学を許可するために十分な資質を備えたと判断される受験者を合格者としました。合格者となるためには、大学入学共通テストで受験を要する教科・科目の合計が、概ね合格基準点（歯学科は900点満点で650点、口腔健康科学科は800点満点で500点）以上であることが必要でした（令和4年度入学者選抜では、口腔健康科学科口腔工学専攻に変更があります。詳しくは学生募集要項で確認してください。）。

<受験者や高校教員に伝えたいこと>

11月の選考後に合格者発表を行わず、大学入学共通テスト終了後の2月に合格者を発表します。このため、両学科とも、小論文や面接で高い評価を得ながら、大学入学共通テストの得点が合格基準点に達せず、不合格となることがあります。大学入学共通テストの合格基準点は歯学部で学ぶための基礎学力として必要な最低ラインを設定したものですので何とぞご理解ください。

ぜひ、志の高い生徒に歯学部の総合型選抜 II型を勧めただければと考えています。

薬学部 薬学科

薬学部 薬学科

<面接の内容と方法>

1人の受験者に対して、異なるメンバーによる2回の個人面接を実施した。一方では科学の知識を問う質問、もう一方では、薬学や薬剤師への関心を問う質問をした。

<面接において特に重視した点>

相手の話を正確に理解できること、論理的な話し方ができること、高等学校レベルの正確な科学の知識を備えていること、薬学や薬剤師についての広い関心をもっていること、広島大学薬学部で学ぼうとする意欲が感じられることなどを評価した。

<提出書類において重点を置いて評価した点>

広島大学薬学部で学ぼうとする意欲が感じられること、本学部で学んでいく上で必要と



なる国語・英語・数学・理科の十分な学力が期待できること、科学への関心が感じられることなどを評価した。

<受験者や高校教員へのメッセージ>

広島大学薬学部で学び、将来の日本の薬学を背負っていかうという意欲に期待しています。広島大学薬学部は、日本で一番学生数が少ない薬学部ですが、少数精鋭で薬剤師や創薬研究者をめざすグローバルな人材育成を行い、世界に通じるトップレベルの人材を輩出します。

薬学部 薬科学科：学校推薦型選抜

<面接の内容と方法>

1人の受験者に対して、異なるメンバーによる2回の個人面接を実施した。一方では科学の知識を問う質問、もう一方では、創薬研究や薬科学への関心を問う質問をした。

<面接において特に重視した点>

相手の話を正確に理解できること、論理的な話し方ができること、高等学校レベルの正確な科学の知識を備えていること、創薬研究や薬科学についての広い関心をもっていること、広島大学薬学部で学ぼうとする意欲が感じられることなどを評価した。

<提出書類において重点を置いて評価した点>

広島大学薬学部で学ぼうとする意欲が感じられること、本学部で学んでいく上で必要となる国語・英語・数学・理科の十分な学力が期待できること、科学への関心が感じられることなどを評価した。

<受験者や高校教員へのメッセージ>

広島大学薬学部で学び、将来の日本の薬学を背負っていかうという意欲に期待しています。広島大学薬学部は、日本で一番学生数が少ない薬学部ですが、少数精鋭で創薬研究者をめざすグローバルな人材育成を行い、世界に通じるトップレベルの人材を輩出します。

工学部 第一類（機械・輸送・材料・エネルギー系）

<面接の内容・方法>

自己推薦書・調査書の内容及び小論文の解答結果を参考に、複数の面接担当教員が口頭試問を行い、採点した。

<面接において特に重視した点>

アドミッション・ポリシーに真に適合した学生で、機械工学の分野を始めとした入学後の勉学に強い意欲を持っている点。

<小論文の内容・テーマ>

高等学校の物理で勉強する内容に関連した、物理現象を論理的に思考する力を試す記述式問題を出題した。

<提出書類において重点を置いて評価した点>

自己推薦書の内容が、アドミッション・ポリシーと一致しているかを重点的に評価した。

<受験者や高校教員に特に伝えておきたいこと>



英語・数学・物理等主要科目の基礎学力が十分であると判断できることに加えて、第一類で学びたいという明確な意欲を持つとともに、進学後もその意欲に従って目標達成のための継続的努力を惜しまない学生を求めています。

なお、令和4年度の入学者選抜から、第1次選抜の方法が小論文から筆記試験に変更となり、自然科学・技術に関する基礎知識（数学，物理などを含む），論理的思考と表現力をみる問題を出題します。

工学部 第二類（電気電子・システム情報系）

<第一次出願書類の審査>

高校で取り組んだ内容，志望動機や将来の目標，問題着眼点や発想力，文章力などについて評価した。

<小論文の内容・テーマ>

数学と物理に関する論理的思考力を確認する記述式問題を出題した。

<面接の内容・方法>

面接では，勉学に対する意欲や適性をみる質問ならびに数学と物理の基礎学力をみる試問を行った。

<受験者や高校教員に特に伝えておきたいこと>

第二類で学びたいという強い意欲や情熱が最も重要ですが，入学後の専門分野の学習に支障のない基礎学力も必須です。また，大学入学共通テストの得点を最終合格者決定の判断材料としていますので，学力向上を怠らないでください。

工学部 第三類（応用化学・生物工学・化学工学系）

<小論文の内容・テーマ>

化学の基礎知識を試す問題を出題した。

<面接の内容・方法>

面接試験は，一般面接室，有機・無機化学面接室，物理化学面接室，生物化学面接室の4室を移動する形で行った。各面接室では，複数の教員が口頭試問を行った。

<面接において特に重視した点>

- ・応用化学・生物工学・化学工学の分野における興味や関心及び勉学に対する意欲
- ・化学全般の基礎的な学力と知識

<受験者や高校教員に特に伝えておきたいこと>

第三類で学びたいという強い意欲と情熱を持ち，化学，英語及び数学について基礎学力をしっかりと身につけた学生を求めています。令和4年度光り輝き入試から，基礎学力を重視して大学入学共通テストの比重を増やします。

工学部 第四類（建設・環境系）

<提出書類の評価>

自己推薦書の内容が，アドミッション・ポリシーと一致しているか重点的に評価した。



<面接の内容・方法>

調査書，自己推薦書を参考にして，小論文，面接内容を複数の教員が採点した。

<受験者や高校教員に特に伝えておきたいこと>

●第四類では，工学分野において必要な基礎学力はもちろんのこと，建築・社会基盤分野に関する勉学意欲が旺盛であり，この分野で社会に貢献したい人を求めています。入学後，この専門分野を学ぶに必要な基礎学力（特に，数学，物理）は必須条件となります。

●第四類では，2年進級時に建築プログラム，社会基盤環境工学プログラムのいずれかの教育プログラムに配属されます。配属は，本人の希望と1年次の成績により決定され，選抜方式（光り輝き，前期，後期）による配属ルールの違いはありません。

<その他>

スポーツ・文化活動で良い成績を挙げた学生よりも，第四類の分野で優れた才能を発揮する学生を求めています。

生物生産学部 生物生産学科

【総合型選抜Ⅱ型】

第1次選考（書類選考）合格者に対し，第2次選考（セミナー受講によるレポート提出及び面接）を行い，第2次選考合格者に対して，最終選考により最終合格者を決定した。

●第2次選考

セミナーを受講後の提出レポート（500点満点）と，面接（500点満点）の総合点で判定。

●最終選考

第2次選考合格者のうち，大学入学共通テストで受験を要する教科・科目の得点の合計が合格基準点（540点）以上であった者を最終合格者とした。

<セミナー>

生物生産学部に関連する2つのテーマについて，パワーポイントを用いてそれぞれ短い講演を行い，趣旨の理解力と問題展開の能力を評価するためのレポート作成を課した。

<面接>

- ・一人あたり15分程度の面接を，複数の面接委員との質疑応答で実施した。
- ・志望理由の明確さ，学習意欲，プレゼンテーション能力，コミュニケーション能力などを重視した。

【フェニックス方式】

志望理由書を参考資料として用い，面接（段階評価）を行い判定した。

<面接>

- ・一人あたり30分程度の面接を，複数の面接委員との質疑応答で実施した。
- ・志望動機，勉学の志向・意欲，基礎学力などを重視した。

生物生産学部 生物生産学科：学校推薦型選抜

【学校推薦型選抜】

第1次選考（出願書類，セミナー受講によるレポート提出及び面接）を行い，合格者に対



して、最終選考により最終合格者を決定した。

●第1次選考

調査書・推薦書及び志望理由書（50点満点），セミナーを受講後の提出レポート（500点満点），及び面接（500点満点）の総合点で判定。

●最終選考

第1次選考合格者のうち，大学入学共通テストで受験を要する教科・科目の得点の合計が合格基準点（380点）以上であった者を最終合格者とした。

<セミナー>

生物生産学部に関連する2つのテーマについて，パワーポイントを用いてそれぞれ短い講演を行い，趣旨の理解力と問題展開の能力を評価するためのレポート作成を課した。

<面接>

- ・一人あたり15分程度の面接を，複数の面接委員との質疑応答で実施した。
- ・志望理由の明確さ，学習意欲，プレゼンテーション能力，コミュニケーション能力などを重視した。

情報科学部 情報科学科

<第一次出願書類の審査>

志望動機や将来の目標，高校で取り組んだ活動内容，調査書の内容等について，評価しました。

<小論文の内容・テーマ>

「数学」と「情報」に関する論理的思考力を確認する記述式問題を出題しました。特に「数学」では，高等学校で習う数学Ⅰ・数学Ⅱ，数学A・数学Bの中から，データサイエンス・インフォマティクス分野に深く関わる数学の内容を重視しました。「情報」に関しては，高等学校普通教科情報の内容を考慮した出題を行いました。

<面接の内容・方法>

面接では，15分程度を目安に，志望動機や午前中にあった小論文の内容，近年におけるデータサイエンス・インフォマティクス分野におけるトピックスに関する質問を行いました。

<受験者や高校教員に特に伝えておきたいこと>

日頃からデータ科学や情報科学分野に関する興味・関心を持ち，様々な活動を通し，学ぶ意欲を育むことが肝要です。一方，大学入学共通テストの得点に基準点を設けているので，基礎学力を身に付けることも不可欠です。